

# 本の 広場

## 『加齢とめまい・平衡障害』

室伏利久著, A5判, 112ページ, 定価3,150円, 新興医学出版社

めまいやふらつきなどの平衡障害を訴えて医療機関を受診する高齢者は多いが、適切な診療が行われていないケースも見



られる。しかし、高齢者の平衡障害は、転倒や骨折などにつながりやすく、ひいては寝たきりなど生命予後を悪化させる契機ともなり、過小評価すべきではない症状といえる。

「超高齢化社会の到来を間近に控えた今、介護予防の観点からも、その対策は喫緊の重要な課題」と序文で強調する著者は、加齢性平衡障害 (presbystasis) という新たな疾患概念の提唱者でもある。

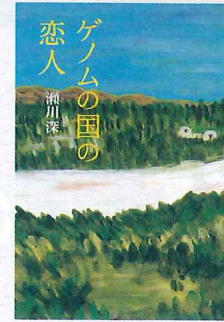
本書ではまず、加齢現象や身体の平衡の維持機構(前庭系, 体性感覚系, 他)などについて解説。その後、めまいや平衡障害の間診のポイントや診断のこつ、平衡機能検査・聴覚

検査・画像検査などの各検査について詳述している。最後は、高齢者のめまい・平衡障害全般を概説し、その中で著者が提唱した新たな疾患概念についても触れている。高齢者のめまいの日常診療で役立つ1冊となるだろう。

## 『ゲノムの国の恋人』

瀬川深著, 四六判, 320ページ, 定価1,680円, 小学館

第23回太宰治賞を受賞した作家で、遺伝子研究医でもある著者の手による小説。さる国でお妃候補たちのヒトゲノム解析を担当することになったとある遺伝子研究者の姿と、異国の人々、風情、政治情勢を、諧謔と皮肉も交えつつ丹念に描く。



路頭に迷いつつあった遺伝子研究者のタナカは、ある日、リサーチコーディネーターを名乗る男に誘われ、アジアの小国に君臨する絶対権力者の息子が持つ遺伝子とお妃候補たちが持つ遺伝子とのマッチングを調査することになった。タナカは、異国の暮らし、風物、住民の様子に戸惑いながらも、巨額予算と最新鋭の研究機器に恵まれた環境でヒトゲノム解析に没頭していく。研究の合間には1人の女性兵士との逢瀬も楽しみつつ、自身の職責を果たしていく

タナカだが、徐々に各お妃候補の背後に控える大物政治家や軍人の懐柔や圧力に翻弄され始める。

果たして御曹司に最もふさわしい花嫁候補は誰なのか、タナカと女性兵士の恋のゆくえはどうなっていくのか、物語は終盤、急転直下の展開を見せる。

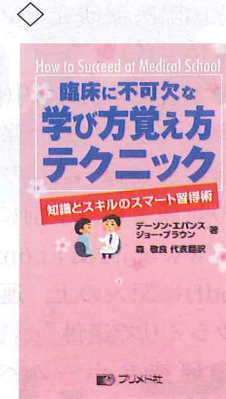
## 『臨床に不可欠な 学び方覚え方テクニック -知識とスキルのスマート習得術』

デーソン・エバンス/ジョー・ブラウン著, A5変形判, 199ページ, 定価1,890円, プリメド社

医師になるには膨大な医学知識やスキルの習得が欠かせず、医学生や研修医は“詰め込み型”の勉強法をとりがちなのが実情だ。しかし、実臨床で必要とされるのは、こうした知識の詰め込みではない。

本書は、ロンドン大学で医学教育に携わる著者らが、英国で行われている医学教育の効率的で効果的な学習テクニックを紹介したもの。自覚やモチベーション、自律性などさまざまな側面から学習を捉え、知識のコンテンツとしてではなく、“学びとは何ぞや”に焦点を当てている。

まずは最も効率的に学ぶための学習スキルを身に付ける方法を4つの



セクション(知識の習得、臨床スキルとコミュニケーションスキルを学ぶ、グループワーク、試験対策)に分けて紹介。続けて、自分の学び方を自分で考え、学習の中でいつスキルを使うべきかを自覚できる方法を紹介している。研修医が学び方を考えるきっかけとなるだけでなく、医学教育者にとっても示唆に富む1冊といえよう。

## 『なに? これ! 胸部X線写真』

池田貞雄, 畠中陸郎著, B5判, 257ページ, 定価6,720円, 金芳堂

一目で異常だと分かる胸部背腹写真を前に「この症例はどうです?」と問われたら、どう答える? 苦し紛れに「ここが曇っています」と指差すか、まずは異常陰影のある場所を具体的に述べ、周辺の状態を判断して可能性の高い診断名を考える。著者らが外来や職場検診の読影で83症例について、診断に至るまでの思考過程を2~3人で討論する形でまとめている。

外来では異常所見があればさらに検査を追加することも可能だが、検診での異常は毎年の陰影の変化を追跡できるものの、CTなどを追加しての解析はできない場合が多い。この正解がない異常所見を2人の著者がそれぞれ独立して読影すれば、どのような結論になるのか。2人で診断のコンペを行った。自信がある症例では図を書いて説明したものもあるし、診断が絞り切れずにさらに検査が必要と逃げってしまったものもある。

このように著者2人が臨床の場で実際に行っている読影の考え方を説明しているが、過去の経験を頼りに診断すると恥をかくことが多い、目の前の画像を注意深く観察することだけが正しい診断につながる、としている。



### 〈書籍点描〉

書名	著者・編者・訳者	判型・ページ数	定価	発行所	点描
医療の巨大転換を加速する糖質制限食と湿潤療法の影響	江部康二・夏井睦	四六判 221ページ	1,575円	東洋経済新報社	「医学は異端が主流になる戦いの繰り返しで進歩してきた」。糖質制限食や湿潤療法など、これまでの常識を覆す治療法を提唱してきた著者らが、非科学的な医学界に警鐘を鳴らし、新しい医学常識と良い医者条件を語り尽くした対談
トラウマティック・ブレイン 高次脳機能障害と生きる奇跡の医師の物語	橘とも子	四六判 376ページ	1,890円	SCICUS	交通事故により、16歳で高次脳機能障害と身体障害とともに生きることを余儀なくされた著者が、障害と向き合いつつも医師になり、結婚や出産を経験した半生を克明につづる。「見えない障害」を受容できる社会とは? -重大な課題を投げかける1冊
老化は治せる	後藤眞	新書判 185ページ	735円	集英社	「老化の原因は炎症にあり、治療可能」とする独自の老化理論を展開する著者が、老化を病気とする新しい知見や、炎症鎮痛薬・抗酸化薬の治療薬としての可能性を分かりやすく解説。手軽に実践できるアンチエイジングの方法も紹介している